KYUSHU INTERNATIONAL UNIVERSITY

KYUSHU INTERNATIONAL UNIVERSITY

KYUSHU INTERNATIONAL UNIVERSITY

総合学園広報誌 No.1

KYUSHU INTERNATIONAL UNIVERSITY

KYUSHU INTERNATIONAL UNIVERSITY

KYUSHU INTERNATIONAL UNIVERSITY

KYUSHU INTERNATIONAL UNIVERSITY

KYUSHU INTERNATIONAL UNIVERSITY

学校法人　九州国際大学

CONTENTS

- あいさつ
- 大学 1
- 男子部 4
- 女子部 6
- 中学校 8
- スポーツを通じた地域交流 10
- 次世代システム研究所 12
- 財務データ 14

あいさつ

学校法人九州国際大学
理事長　迎　静雄

学校法人九州国際大学は、50有余年の歴史と伝統を有し、付属中学校、付属高等学校、大学、大学院の学生・生徒7,300名を擁し、中学から大学院までの一貫教育を目指す北九州市内でも有数の学園であります。

本学園の活動内容につきましては個別に広報してまいりましたが、これらをまとめて学園総合広報誌として、このたび本学園の活動状況を広く学生・生徒・保護者の皆さまのみならず地域の方々にご紹介させて頂くことになりました。

平成16年は干支では庚申、ものごとの始まりの年であります。教育の分野では国立大学の独立行政法人化、ロースクールの開設など新たな改革が始まる年でもあります。

本学園も、この改革の動きに遅れることなく、これからも社会に役立つ有為な人材の育成を目指し、魅力ある学園づくりに励んでいく所存であります。そして、地域に愛される学園としてこの広報誌を通して皆さまとともに歩んで行きたいと思います。

九州国際大学
学長　大原　邦英

情報化時代を迎え、大学においても広報活動が重視されるのは異論のないところである。その意味で、この度の各部門別ではなくて、学園全体としての広報活動を有機的・効果的に行うための学園総合広報誌の発刊は、時宜を得た企画であるといえよう。広報誌は、学園全体のさまざまな活動を映す「鏡」であり、対外的には学園の学生募集戦略をリードするものとして、或は地域や社会への貢献等についての理解を促すものとして、又、対内的には学園の活性化や学園構成員（ＯＢ・保護者等を含む）の情報の共有化に資するものとして極めて重要な機能を果すものである。そして、広報の内容は各部門のいろいろな事柄に亘るが、あくまで受け手に分り易くかつ正確であることが求められる。又、広報活動は現代社会のニーズに迅速に対応するものでなければならないし、各部門の学内情報を日頃からどのように収集し、編集するかについて工夫を凝す必要があろう。学園のあらゆる情報が発信される広報誌を通して、本学園全体の力が一層向上することを期待したい。

九州国際大学付属高等学校
校長　大村　寛

21世紀の明日を担う若者達が豊かな社会性と優れた創造力を培い、自ら考え、自ら責任がとれる大人に成長することは、私たち教職員すべての願いであります。九国大付属高校は、昭和33年「社会に役立つ人材の育成」を掲げて男子部を創設し、５年後「明るく、清く、淑やかに」を目標に女子部を開校、平成12年、二千年の世紀の開幕に「ゆとりとオンリーワン」を目指して一貫部を開校と着実な資質向上と組織の充実に努めて参りました。さらに大学移転に伴い、高校校舎の立替えも順調に進み、女子部の校舎のみとなり、本年度完成すれば抜群の教育環境と施設設備を備えた学校ができ上がる。そのような中で男子部、女子部、一貫部が独立して、各々の建学の精神を追求しながら、競い合って、「北九州に九国付属あり」と、高い評価と厚い信頼に耐えられる学園の創造に覚悟を新たに、邁進したい。

本誌発刊にあたりご尽力いただきました各位に心から感謝申し上げて挨拶とします。

今後とも、みなさま方のご理解ご支援の程よろしくお願い申しあげます。

超難関国家試験
公認会計士合格!!

公認会計士試験は、司法試験と並ぶ最も合格が難しい国家試験です。この難関国家試験に本学卒業生・在学生が挑戦し、合格の栄冠を獲得しています。久しぶりに生まれた彼等の合格は、在学生の大きな励みとなっています。

まずは立石浩将さん（経済学部平成11年卒）を紹介しましょう。彼は２次試験の短答式・論文式試験に合格し、現在公認会計士補として監査法人の国内最大手のひとつである中央青山監査法人に所属し、３次試験の受験資格を得るべく実務経験を積んでいます。

立石さんは長崎県の上五島高校から経済学部に入学し、友人に誘われて大学の授業ではじめて簿記に接したそうです。そこで簿記のおもしろさにとりつかれ、勉強を重ねるなかでどうせなら簿記の勉強を極めたいという思いが強くなり、公認会計士挑戦を決意したそうです。

立石 浩将さん

公認会計士合格には猛烈な受験勉強が不可欠です。彼はゼミの指導教授のアドバイスを受けながら受験勉強に励み、卒業後も初志を貫徹すべく受験勉強をつづけて、見事合格されました。

もう一人の挑戦者は、経済学部を今春卒業した加倉井孝宏さんです。加倉井さんは在学中にすでに２次試験の短答式試験に合格し、現在は論文試験合格に向け勉強中です。大学在学中に短答試験に合格することは、一流大学といわれる大学でもなかなか難しいと言われています。

加倉井さんは若松商業高校出身で、高校時代に得意だった簿記の勉強を生かすため、経済学部に進学しました。そして入学後さっそく本学の資格取得を目的とした附属教育施設であるエクステンションセンターで簿記１級対策講座を受講し、簿記会計分野の勉強を深めていきました。

彼も立石さん同様、簿記を極めるために公認会計士をめざし、大学の授業と平行して専門学校にも通いながら猛勉強を続けてきました。大学では簿記会計の勉強のほか、経済史などの勉強にも興味をもって取り組んだそうです。

加倉井 孝宏さん

彼らに共通するのは、自分の目標に向かって努力し続ける姿勢です。これはどの分野にも当てはまることです。彼らに続く学生が増えることを今御期待したいと思います。

語学の九国大をめざして
語学教育の充実に新カリキュラム導入

九州国際大学は、国際的人材を輩出すべく語学教育に力を注いできました。また学生たちも、交換留学や私費留学、語学実習等で中国、韓国、インドネシア、アメリカ、オーストラリア、ドイツなどで生きた外国語を身につけています。

これまでの外国語教育の蓄積をふまえ、さらなる充実を図るべく語学教員を中心に様々な検討がなされ、新年度から新たな語学教育のカリキュラムが実施されることになりました。

新しい語学教育カリキュラムの柱は、英語の必修化・習熟度別のクラス編成・多様な選択必修科目の設置です。

本学に開設されている外国語科目は、英語・中国語・韓国語・インドネシア語・フランス語・ドイツ語があり、これまではこれらの科目を学生が自由に選択できるシステムを採用していました。

このシステムはある意味で多様な言語を学べる利点はありました。しかし社会の国際化・情報化のなかで、英語はコンピューター操作同様、日常生活で欠かせない道具になっています。また同時に大学は、中学以来の英語学習を実際に使えるレベルまで高める責任を負っています。そこで新しい語学教育カリキュラムでは英語を必修化し、他の言語を選択科目とすることに変更しました。

入学してくる学生の英語力は様々です。学生の学びの意欲を維持するため、また「使える英語力」を育成するため、英語の習熟度のレベルにあわせて、基礎クラスから特別クラスの４段階に分け、事前のプレースメントテストによってクラス分けされ、各レベルに応じた教育を行えるようにしました。これによって英語を初めて学ぶ留学生や英語が苦手な学生から、英検２級以上を目指す学生まで自分のレベルにあった授業が受けられることになります。

この習熟度別クラスは、昨年から本格的に実施されていますが、どのレベルの学生からも「非常に学びやすい」と好評です。

選択科目群についても英語を充実させており、オーラルコミュニケーション・ライティング・リーディング・トーイック英検対策など、これも各レベルで用意されています。

紙面の関係でそれ以外の様々な改革を紹介できないのが残念ですが、語学教員は様々な検討を重ねながら、「使える語学力」「検定試験合格」を目標に語学教育に励んでいます。

学びを総合的にサポート
学生相談・修学支援室

これまで開設されていた「学生相談室」が「学生相談・修学支援室」に生まれ変わって２年目を迎えました。

この全国に例のない新しい修学支援体制に多くの大学や高校から注目を集めています。

近年の少子化の進行、大学進学率の高まりのなかで、本学に進学してくる学生の入学動機、学力、意欲などが多様化しています。その結果、「大学になじめない」「友達ができない」「大学の勉強についていけない」「将来の進路が不安」等の悩みをもつ学生も増えてきました。

このことは①目的意識の希薄化、②基礎学力の欠如、③学習習慣の未確立、④対人関係スキルの未確立、⑤集団適応の難しさ、など教育指導に特別な配慮を必要とする学生が増大していることを意味します。

このような学生に対応するには、従来の「学生相談室」でのカウンセリングだけで解決することは難しく、学生生活をあらゆる面から支援し、一人ひとりの学生の成長・発達を支援し、その能力開発をはかるため全学的に統合的なシステムの構築が必要となってきました。こういった議論をふまえて生まれたのが「学生相談・修学支援室」です。

学生相談・修学支援室は、心理カウンセラー、各学部の教員から選任された修学支援委員、事務職員のスタッフが常駐し、各種の個別相談、カウンセリングのほか、大学での居場所を提供するための交流会や各種イベント、自己発見・自己理解を促進するための各種体験、定期試験不安解消講座、成績相談会、各種調査研究などを行っています。

また、これらの活動は単に学生相談・修学支援室にとどまらず、ゼミの担当教員、関係部署との連携を行うことでフォローアップする体制を構築しています。

大学に入学してきた新入生がまずとまどうことは、これまでの「集団」の世界から急に「個」の世界に放り込まれることです。与えられたクラスもなく、与えられた時間割もありません。高校までならクラスで自然に友人が作れたことも大学では自分で動かなくてはなりません。しかも、ゆとりのある時間割に生活のリズムを作り上げることもはじめは苦労します。

また大学の授業は、これまでの答えを導き出すという高校までの授業から、概念を積み重ねながらある事象について考え理解するということが中心になり、勉強方法や授業の理解度について誰もが少なからぬ不安を感じてしまいます。

このような高校と大学のギャップに心的ストレスを感じることで、勉強への意欲を失ったり、孤独感を感じたり、目標を失ってしまう学生が増えてくるのです。

このギャップと心的ストレスを取り除くことが、大学教育の導入期において非常に重要な課題となります。本学においても１年生からの入門演習や様々な行事などを行っていますが、この学生相談・修学支援室は直接一人ひとりの学生と関わる非常に重要な役割を担っています。

２年目を迎え、学生の間でも気軽に立ち寄れるスペースとして認知され、月を追うごとに利用者が増えています。修学支援室のフリースペースでは、様々な学生が思い思いに集まって来て、その中から新たな人間関係を作ったり、修学支援の先生達とうち解けた関係を築いたりしている姿を目にすることができます。

このように学生から認知されてきたことは嬉しいことですが、見方を変えればそれだけ大学でのギャップに悩む学生が多いということになります。今後学生相談・修学支援室の機能をさらに充実させ学生の悩みや不安を解消して、彼らに充実した学生生活を送れるよう支援したいと思っています。

世界レベルの指導
バドミントン部

●高大連携について

バドミントン部の歴史は古く、昭和40年代から同好会として活動を開始、平成に入ってからサークル部に昇格し現在に至ります。平成14年から全国大会レベルの本学付属高校と連携した指導体制のもと練習を行っています。それにより付属高校をはじめとする実力校から選手を受け入れることが可能となりました。現在、部員数28名（男子19名、女子9名）を擁するチームとなり、毎日大学KIUドームで汗を流しています。

イマム トハリ氏

●指導体制について

付属高校と連携した指導体制により、元世界ランキング4位で付属高校女子部コーチのイマム・トハリ氏の指導を受けれるようになりました。また、フィジカルトレーニングには理学療法士の作成したメニューで無理のない筋力アップを行っており、『心、技、体』を鍛える場となっています。

それにより次のような成績を修めることができました。

●主な成績（平成15年度）

第52回全九州学生バドミントン選手権大会

女子団体……優勝（初出場、初優勝）
女子個人シングルス…優勝　山田紘実【経済１年】
女子個人ダブルス……優勝　山田紘実【経済１年】
仲間　愛【経営１年】

文部科学大臣杯争奪
第52回全日本学生バドミントン東西対抗競技大会

西軍代表……山田紘実【経済１年】

平成15年度全日本学生選抜海外遠征（台湾）

選抜メンバー……山田紘実【経済１年】

●イマム氏のコメント

今までの経験をいかし、技術面だけでなく精神面も併せて伝えていきたいと考えています。また、選手のみんなにはバドミントンを上手くなるだけではなく、楽しんでもらいたいと思います。

●イマム氏経歴

1978年インドネシア生れ
1995年から2000年までインドネシアナショナルチームに所属
世界ランキング最高順位　4位
主な成績　1996年　オーストラリアオープン3位、香港オープン3位
1997年　インドオープン優勝、ポーランドオープン準優勝
1998年　インドネシアオープン3位
1999年　ジャパンオープンベスト8
2002年12月より本学園に所属

選手時代のイマム氏

楽しむことをモットーに
重量挙部

●指導方法・競技内容

ウエイトリフティング競技内容は、体重別に8階級に分かれ、スナッチ、ジャークのそれぞれ3回の試技の一番重い記録のトータルで総合成績を競い合います。練習にあっては、ただ単に重いものを上へ持ち上げるのではなく、筋力、スピード、バランス、瞬発力、集中力とメンタル面で非常に気を使う競技で、指導にあっては練習だけではなく、スポーツを楽しむことをモットーに指導しています。

●選手について

以前は、高校時代からの経験者はおらず、一般学生で大学からの指導を行っていましたが、現在、部員数は39名在籍し、出身は北陸、中国、四国、九州地区で、すべてが経験者です。昨年度のスポーツ推薦では、京都府から日本高校新記録を樹立し、次期オリンピック候補も推薦で入学しています。また、女子のウエイトリフティングも公式競技として認定され、女子の勧誘活動も考えています。

●主な成績

平成15年度全日本学生選手権大会
団体１部リーグ５位
平成15年度西日本学生選手権大会
団体１部リーグ１位（４連覇）
平成15年度全日本学生個人選手権大会
85kg級個人優勝…高橋竜太【法律２年】
平成15年度内閣総理大臣杯国民体育大会
県代表として11名出場

●福田監督のコメント

重量挙部は創部41年を迎え、KIUドームの充実した施設の中、全国優勝を目指し、日々努力をしています。ウエイトリフティング部も含め、大学には多くのサークルがありますが、OBであります私自身が、学生生活のありかたを振り返ると、学業とスポーツの両立を基盤とした中で、九州国際大学で培ったものを生かし、心の礎として立派な社会人となってもらいたいと思います。

●福田監督の経歴

日本オリンピック委員会強化スタッフ（コーチングスタッフ）
福岡県ウエイトリフティング協会理事
国民体育大会14回出場
全日本社会人大会　2位
ジュニアウエイトリフティング強化コーチ

福田　登美男監督

男子部

大学合格者数
（4月14日現在）

男子部では、クラス編成がこれまでの「特別進学クラス」「進学クラス」に加えて「特別進学難関クラス」を新設し、今春スタートとなりました。大学合格者数の表からもご理解頂けるとは思いますが、本校はこれまでこのように難関校から一般の大学まで幅広い実績を上げてまいりました。今回この「特別進学難関クラス」をスタートさせることにより、一般に言われております「難関大」（旧帝大・早稲田・慶応・医歯薬系等）に多数の合格者を出すことが主たる狙いです。特徴としましては、

・少数精鋭・文理混合クラスで全員に奨学金給付
・授業進度を速め、主に国公立二次対策に力を入れた入試演習の早期実施
・第二・四土曜日にもサテライト等の授業を実施

最後になりましたが、これまでの「特別進学クラス」「進学クラス」におきましても、更に充実させるべく日々生徒達とともに精進いたしております。

平成16年度　大学合格状況（4月14日現在）

（国公立大）

名古屋大	1
筑波大	1
広島大	4
九州大	7
九州工大	7
長崎大	7
熊本大	3
鹿児島大	6
北九州市立大	14
その他	34
合計	84

（国立準大）

職業能力開発大	3
防衛大	9
水産大	5
その他	7
合計	24

（私立大）

慶応大	2
早稲田大	6
同志社大	4
立命館大	8
関西大	11
西南学院大	18
立命館アジア大	9
九州国際大	54
その他	284
合計	396

国民体育大会　85kg級優勝
重量挙げ部　高橋一馬

僕の愛読書は『オリンピックへの道』です。重量挙げ競技で、東京・メキシコ両オリンピックで金メダルを獲得した三宅義信選手が書いた本です。読むたびに勇気が湧いてきます。僕が国民体育大会で優勝し、表彰台から降りてゆくと、その三宅選手から『よかったなー。おめでとう』と声をかけていただき、握手を求められました。握ってくれた手は、厚くゴツゴツで固かった。感激しました。

僕は重量挙げをやっている兄の姿にあこがれて競技を始めました。そして兄の後を追い、九国大付属に入学しました。とてつもなく強い兄ですが、僕も高校時代の兄の記録に、あと一歩まで近づく事ができました。この兄の記録を破れば、来年もインターハイ、国体でも上位が狙えると思います。

日頃遅くまで指導してくださる大庭先生や、一緒に練習して応援してくれる仲間達のためにも頑張りたいと思います。

卒業後は、大学重量挙げ界ではトップレベルの九州国際大学に進学し、オリンピック出場を目指して頑張ります。

重量挙げ部
部長　大庭広行

高校の運動部員の中には、競技者としてのレベルが今現在は高いが、日常生活に於ける自己管理が甘く、卒業後はダメになってしまう選手が見うけられます。一馬君の強みは、練習に取り組む姿勢はもとより、この大切な管理を徹底してやることの出来る意志の強さです。学業成績もクラスではトップ近くを維持し、疑問点があれば徹底して研究する、探究心の強さが現在の彼を築いています。

何はともあれ、将来は日の丸を着けて付属出身３人目のオリンピック選手になって欲しいと思います。

第２２回
全日本ジュニア選手権大会
シングルス準優勝

バドミントン部　中西雄希

私は全日本ジュニア選手権大会で準優勝という成績を出すことができました。これも監督の伊藤先生や、女子部の監督の明神先生、コーチのイマムさん、クラブの仲間たちのおかげだと思っています。私は中学の時、県で３位、九州大会でも１回戦で負けるレベルの選手でした。でも、もっと強くなりたいと思い九国大付属に入学し、必死に練習を重ねてきました。２年生の時の新人戦でやっと県１位になれましたが、九州大会であと一歩の頑張りが利かずに、全国選抜への切符を逃しました。３年のインターハイでも一つの簡単なミスで３回戦で敗れました。８月にインターハイが終わり、気が緩みかけたところで先生に、「お前はまだ全国で本当の力を出し切れていない、このまま終わる気か。」と言われ、目が覚めました。必死で練習してきたことが出せていないことを自分でももったいないと感じ、「自分でも勝てる。」という意識を持って練習しました。全日本ジュニアで勝ち上がっていくうちに、「大事なのは気持ちなんだ。」ということを改めて感じました。私はこの学校にきて本当によかったと思っています。九国大付属出身という誇りを胸に、大学でも頑張りたいと思います。

バドミントン部
監督　伊藤　誠

私も指導に携わって９年になりますが、彼ほど入学時から、「強くなりたい。」という強烈な意志をもっていた生徒は初めてでした。３年生のインターハイまで満足のいく結果が出なかったのですが、私はきっかけさえつかめば絶対に全国でも勝てると信じていました。誰よりも真摯に練習してきた結果が福岡県男子初の快挙につながったことは、指導者として何よりも嬉しいことです。人柄はもとより、向上心、探究心には素晴らしいものがありますので、更にレベルアップして日本を代表する選手になって欲しいと思っています。

女子部

女子部特進50.8倍
県下No.1の倍率堅持
2004年度入試終わる

年々少子化の影響で受験生が減りつつある状況の中で、今年の女子部の一般入試が１月27日（火）に行われ2532名が受験した。毎年県下ナンバーワンの倍率を誇る女子部特進コースは今年2013名が志願し、50.8倍の高倍率を堅持しその人気振りをあらためて示している。進学コースも2.4倍、国際教養コースは2.8倍と倍率を昨年より伸ばし、全体として9.9倍の倍率であった。

大躍進
国公立大学
推薦および一般入試合格者

平成16年度の女子部進路状況は推薦入試、一般入試とともに、近年にない好結果がでている。３月31日現在国公立大学31名、大学校３名、私立大学172名、私立短大53名、留学２名、専門学校138名、就職８名と進路先を決めている。

国公立大学の主な合格者数は、九大２、広大１、熊大１、九工大１、福教大１、佐賀大１、山口大２、鳥取大１、高知大１、北九大11、下関市大３、高知女子大１となっている。

女子部化学部
エコ商品の研究・開発に取り組み中
化学部員　濱島　愛さん　ＮＡＳＡへ招待

最近の化学部の活動について、研究中の部員と顧問の二宮先生にお話をしていただきました。

○このところの化学部の活動はとてもめざましいものがありますが、最近どんなところで研究成果を発表されましたか
平成16年２月に佐賀大学で九州高等学校化学クラブ研究発表会に参加しました。

○最近マスコミでも紹介されましたが、どんな新聞やテレビ番組でしたか
毎日新聞「第31回毎日農業記録賞」
ＲＫＢ「サタデー北九州」
ＮＨＫ「ゆうどきワイドふくおか」で活動を放送されました。

○「おから」に着目したのはどうしてですか
豆腐の凝固作用について調べていく中で、「オカラ」がかかえている社会問題に出会いました。

○「おからクッキー」を市販するまでどんな苦労がありましたか
「オカラ」は栄養価が高く、食物センイが豊富な食材です。しかし、小麦粉を一切使わずに、クッキーを商品化するのは難しく業者にことわられたりしたことです。

○今「苗ポット」の開発と実験に取り組んでいるそうですが
はい。北九州市、大学、企業のご協力のもと、研究をすすめています。

○地域の方々ともいろいろな交流があるそうですが
北九州市立ひびきが丘小学校へ、生徒たちがゲストティーチャーとして、環境学習の授業を行いました。

○これからの化学部の抱負をひとこと
いろいろな人達との出会いを大切にして、活動の輪を広げていきたいです。

ありがとうございました。
今後の化学部のますますのご活躍をお祈りいたします。

女子部

女子部修学旅行　関東方面へ
３月６日～９日

今年から女子部の修学旅行は、１年生の３月に３泊４日で関東方面に行くことになりました。日光東照宮や東京ディズニーランドは全員で行きますが、２日目の各コース見学は、個人の選択で浅草コース・横浜コース・鎌倉コースの三つのコースを用意しました。この新しい修学旅行の企画を通してお互いの友情が深まり、高校生活の楽しい思い出がいっぱいできました。
（写真　東京ディズニーランドにて）

バドミントン部
関谷真由さんヨーロッパ遠征へ
２００４年ヨーロッパジュニア選手権大会３位

３月にオランダ・ドイツで行われた国際試合に、２年生の関谷真由さんが出場し、ダブルス、シングルスともに３位入賞を果たしました。なお昨年は、３年生の小野智子さんが代表に選ばれ、この大会でも活躍しました。現在女子部バドミントン部は、10年連続インターハイ出場を果たしており、記録を更新中です。（写真　関谷さん）

16年度行事予定

4月　8日（木）	始業式	9月　2日（木）	第３回実力考査
9日（金）	入学式	12日（日）	体育大会
12日（月）	第１回実力考査	10月20日（水）	韓国研修（国際）
19日（月）	定期健康診断	25日（月）	進路講演会
28日（水）	親睦遠足	11月　5日（金） 18日（木）	オーストラリア研修（国際）
6月　5日（土） 6日（日）	文化祭	12月末	ニュージーランド・ホームステイ
15日（火）	第２回実力考査	1月11日（火）	第４回実力考査
18日（金）	生徒総会	2月21日（月）	保護者進路説明会
21日（月）	進路講演会	3月　1日（火）	卒業証書授与式
7月　3日（土）	３年進路説明会	6日（日） ～9日（水）	修学旅行
5日（月） 6日（火）	クラスマッチ	3月　8日（火）	進路研究会
8月　9日（月） ～11日（水）	夏期学習合宿	19日（土）	終業式

中学校

中高一貫部

中高一貫部もようやく創立４年目となりました。本校では、子供達にいちはやい自立と自律、優れた個性・能力を発揮して貰うため、《挑戦》を主体とする教育に力を入れています。ここではその実践の一端を学校行事を中心にご紹介しましょう。

●長崎街道ウォーク

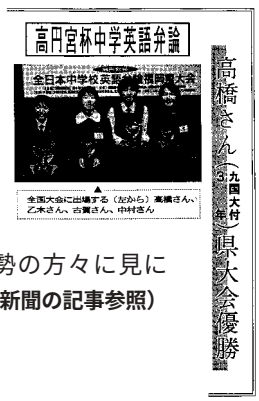
本校の一貫教育は２学年を一区切りとし、各々を「基礎期」「充実期」「発展期」と呼びます。この区分ごとに独自な行事も多数あります。今年ようやく充実期までが揃い、４月～５月にかけて各期に応じた総合学習関連の行事を実施しました。基礎期は３回目となる〈皿倉登山〉。そして充実期は〈長崎街道ウォーク〉にチャレンジ！旧長崎街道の木屋瀬～小倉城間（25キロ）を徒歩で踏破する初の試みです。3･4年生約140名が、往時の旅人の苦労さながらに７～８時間かけて、１人の脱落者もなく無事ゴールまで辿り着きました。郷土の姿、歴史・文化を身近に感じるとともに、心身の鍛練にもつながった意義深い１日を過ごしました。

●自由研究論文優秀者発表会及び文化講演会

これも総合学習と関連します。本校は高校入試がありませんので、人工的に克服すべき壁を用意しています。その１つがこの〈自由研究論文〉です。本格的には３年次から始まり、４年生の夏休み後に最終提出、その後に審査が行われ、優秀者が決定します。分量は原稿用紙30枚以上と規定されています。３年の２学期末には全員が後輩を前にして中間発表を行ないます。それぞれが先生方の指導可能分野一覧表に沿ってテーマを決め、じっくりと自学自習の精神のもと考察を深めていきます。今回は４年生の優秀者８名が発表。日本初の宇宙飛行士として著名な秋山豊寛氏の講演と同時開催の結果、大勢の方々に見に来て頂きました。**（※併載西日本新聞の記事参照）**

わが校の総合学習

原稿30枚の論文に挑戦


高円宮杯中学英語弁論

全国大会に出場する（左から）高橋さん、乙木さん、古賀さん、中村さん

高橋さん（九国大付3年）県大会優勝

●海外体験学習

６月中旬。４年生が７泊８日の日程でオーストラリア研修旅行に出発しました。イラク戦争やＳＡＲＳの影響で３カ月延期しての海外研修でしたが、子供たちはすばらしい体験と出会いを満喫して笑顔で帰ってきました。特にメルボルン郊外のカイントンでのファームステイが最も好評で、たくさんの思い出と学習成果を残しました。異言語・異文化との接触は彼らに大きな刺激を与え、自ら考えて行動することの大切さを学んだようでした。今回の研修を新たな自分発見の旅へ向けての出発点として意識してくれることを願い、私たちも真の国際人育成の重要な行事と再認識した次第です。

●第４回音楽祭

外部の方々にも好評の音楽祭（於響ホール）も４回目。中学部中心ですが、合同合唱は４年生が加わり300人の声量がすばらしく印象的でした。またクラス対抗の歌声コンクールは３年Ｂ組が優勝しましたが、下級生もみごとなハーモニーを聴かせてくれました。このコンクールの良さは、単純に音楽的センスや技術の練度を評価するのではありません。当日までの厳しい練習を通して、子供たち同士、あるいは担任と生徒の葛藤や努力が実を結ぶ点に尽きると思います。合唱を通して忍耐や責任、思いやりの心や協調性といった大切なことを子供達は学びます。聴衆の側もぜひその点に思いを致しながらご来場頂ければと存じます。生徒がホールの２階にまで立つようになった今、年々成長する学校の活力を実感しました。

☆全国・県レベル入賞者☆

●高円宮杯第55回全日本中学校英語弁論大会

優　勝　高橋英里加（３年Ａ組）　全国大会出場
第五位　上野　結城（３年Ｂ組）

●第49回青少年読書感想文コンクール

県特選・全国審査入選賞　安部　真代（４年Ａ組）
県特選　村下　由季（１年Ｂ組）
県入選　飯盛　侃（１年Ａ組）
安部　恭正（２年Ｂ組）
松下　愛（３年Ａ組）
八山　陽介（３年Ａ組）

中学校

高円宮杯に参加して

九国中高一貫部では、国際教育・英語教育の一環として、開校当初から毎年英語スピーチコンテストを学内で中１～中３年生を対象に開催している。この経験が実を結んで、学外の大会でも成果をあげている。去る平成15年10月４日に、高円宮杯「第55回全日本中学校英語弁論大会」福岡県大会が行われた。福岡県の各中学校から29人が出場し、５分間の持ち時間で、自分の夢や経験、友人、家族のことなどを英語でいきいきと語った。九州国際大学付属中学３年生の高橋英里加さんが優勝をした。「物事はあらゆる側面から見よう」というテーマで、原子力発電所を見学した経験をふまえて、「危険で怖いというイメージだけですませてはいけないと思った。真実はあらゆる側面からとらえることによって見えてくる」と訴え熱弁をふるった。また、５位に中学３年生の上野結城さんが入賞している。

自由研究優秀論文発表者

星子友里恵（４Ａ）
『日本妖怪考－都市における妖怪概念の新解釈－』

立和名　梓（４Ｂ）
『星の誕生と死について』

遠藤　千明（４Ｂ）
『縄文時代の生活』

嶋田有梨絵（４Ａ）
『ヨーロッパ中世の魔術－魔術と魔女狩り－』

脇園菜央美（４Ａ）
『〈性格〉の総合的研究』

西頭　　慧（４Ｂ）
『モーターの研究』

増田　祐佳（４Ａ）
『金子みすずの研究』

梅田　陽輔（４Ｂ）
『背負い投げと一本背負いで使う筋肉とその鍛え方』

スポーツを通じた（サッカー）地域交流！

現在本学園では、地域社会に貢献するためのひとつの方策として、また、優秀な人材の確保と育成を目的としてスポーツを通じた地域交流が展開されています。

開設50年以上の歴史を持つ教育機関として、地域の優秀な人材の流出を防ぐことは、将来の地域活性化へも繋げていくための重要な方策と捉え、様々な種目においてこの交流を実施しております。

今回は、サッカー部の活動の状況についてご報告させていただきます。

付属高等学校

北九州サッカー協会からの要望を受け、平成14年度より開始した『付属高等学校男子部におけるサッカー選手の受入れ』では、以下のとおり早くも学園として非常に喜ばしい成果を実らせ、皆様のご協力とご理解によりこの場をお借りしてご報告できることを感謝いたします。

平成14年度

①北九州市サッカー協会主催新人戦出場　参加38チーム中優勝

平成15年度

①第82回全国高校サッカー福岡県大会出場　参加16チーム中第３位

②平成15年度福岡県高等学校サッカー新人大会　参加24チーム中ベスト16

（兼　第25回九州高等学校サッカー新人大会県予選）

③韓国に国際親善試合のため遠征

大学の協定校である東亜大学校を拠点とし、近隣の高等学校との練習試合や親睦を目的として遠征

北九州のサッカーについて

北九州市は、これまで八幡製鐵、三菱化成などの実業団チームが日本一を極め、メキシコ五輪で銅メダルを獲得した日本代表チームに４人の選手を送り出し、最近では日本代表の本山雅司選手（鹿島アントラーズ）やアテネ五輪アジア最終予選で活躍した平山相太選手（筑波大）を輩出しています。また、市内小中学校のクラブチームには全国レベルのチームもあり、日本サッカー界の人材の宝庫であります。
しかしながら、高校年代の優秀な人材は他地域のチームに流出しており、活躍する多くの選手が北九州出身であることはあまり知られていません。

大　　学

本学のサッカー部は昭和43年に同好会として発足し、翌年には部への昇格を果たし既に35年以上の歴史を持つサークルです。

サッカー部結成の目的は、『スポーツマンシップに基づく人間関係、チームワークを尊び、部員全員の信頼と人格の形成にある』と記されています。

一方、今日までの対外活動における成績は、特に輝かしい成績はこれと言ってありません。しかし、2003年より大学におけるスポーツ政策のもとで平成15年度から各サークルに副顧問の制度が開始されました。これを契機に、新生サッカー部として産声を上げ、新たな指導体制のもと今後の活躍を期待されているサークルです。サッカー部設立当初の記録には以下のような記録もあります。

サッカーのゲームは荒々しく激動の渦の中にありながら、知的で組織的に戦ってゆく現代人の理性と高度な技術戦術を駆使する魅力あるスポーツです。

このような状況のもと、平成15年度の活動成果として唯一皆様にご報告できることは、第50回北九州・下関地区大学体育大会（秋季）の決勝戦において、九州大学サッカーリーグの１部チームとして対戦し、創部以来２度目となる優勝をすることができたことです。

부산-일본 축구교류 "물 만났네"

유소년팀부터 고교팀까지 양측 원정 줄이어

월드컵 공동개최 후 인식 달라져 부쩍 활기

2003年８月13日付釜山日報
付属高等学校サッカー部の韓国での国際試合を伝える地元新聞
“ W杯韓日共同開催後、ますます深まる韓日サッカー交流 ”

次世代システム研究所ご紹介

学校法人九州国際大学次世代システム研究所（ＦＲＯＮＴＩＥＲ ＯＦ ＳＯＣＩＯ－ＳＣＩＥＮＣＥ ＳＴＵＤＩＥＳ）はストック型社会システムへの転換を目指した中核的研究所を目指し、平成13年４月15日に設立されました。設立以来すでに３年を経過いたしました。

これまでの経緯をふりかえりますと、当研究所は経済問題と環境問題を統合するＥＣＯ－ＥＣＯ理論（Ｅｃｏｎｍｙ ａｓ Ｅｃｏｌｏｇｙ）に起源を発していると言えます。

この理論から導き出された考え方のひとつが「ストック型社会システム」という概念です。すなわち社会インフラ・生活インフラ等を多世代にわたり利用できるよう長寿命化することで、人間の資源循環を地球の資源循環と同調させ地球環境を持続的にし、同時に資産の世代間蓄積が進むことで生活を豊かにし経済構造の健全化を図ることを目指す考え方です。

この考え方に対する活動は先ず平成８年に、青年会議所等を中心にした市民運動・エコエコ研究会から始まりました。当時の通産省や環境省等の関係機関の支援も得て、定期研究会、各種小冊子・広報ビデオ等の出版、シンポジウム・教育イベント等の開催などを通して世論形成活動が展開されてきました。

エコエコ研究会の中から、ECO－ECOの考え方の理論的検証と具現化に向けた科学技術・社会技術的専門的研究者による理論形成の必要性の声が高まり、平成12年に大学・行政・民間企業・研究機関等の専門家を中心にした次世代システム研究会が発足しました。

更に次世代システム研究会での各種研究活動の過程において、将来の政策展開に向けた研究拠点の必要性が求められ、学校法人九州国際大学に当研究所が設立されることとなったのです。

従って当研究所の主要な研究領域は、ストック型社会システムに関する分野です。この分野を中心に、次世代システム研究会々員をはじめ各種の団体・機関と研究活動を展開してきました。平成14年10月には研究・技術計画学会年次大会においては、ストック型社会システムに関する分野を一単位のセッションとして、次世代システム研究会々員を中心に20件の理論を発表でき、学際的な観点から高い評価を得ることもできました。

学会発表では日本をストック型社会システムに転換するための基本的な考え方と理論に関する総合的な体系の概要を提示しています。すなわち

- **ストック型社会への転換の必要性と効果に関する分野**
- **ストック型社会具現化に向けた技術的領域に関する分野**
- **ストック型社会具現化に向けた社会システム関連領域に関する分野**

これらの論文は工学・自然科学・社会科学・人文科学の各分野を統合的に構成されたもので、これによりストック型社会システムの実現性を検証するアウトラインを得ることができるものと考えます。

今後は次世代システム研究会々員をはじめとする多くの分野の方々の理論を加え、本研究所を更に充実させたストック型社会具現化に向けた総合研究所にしたいと思います。それにより日本をはじめとするアジア諸国を、ストック型社会システムに転換するために貢献したいと願うものです。

これまでに当研究所が公的機関等から受諾した研究・調査等をご紹介します。

当研究所が外部から研究・調査等を受託する場合には、以下の観点を一応の受託の判断基準としています。

- **基本的にストック型社会理論の形成に関連するもの**
- **新たな理論・方法・手法の開発が求められるもの**

特に後者については、学校法人に所属する研究所の立場から態度を明確にしておく必要があると考えます。先ずその種の研究所における調査や研究は基本的に、既存の知識の移転や既存の規範・基準・手順に基づいた調査・研究を行うべきではないと考えています。それらは行政の研究機関やコンサルやアセス会社等民間企業でなされるべきで、学問周辺の機関においては研究の基本、すなわち実態調査→課題の摘出→仮説の設定→検証・実証から、何らかの新たな理論なり方法・手法の開発等が導き出されることが必要であると考えております。また当然のことながらその研究・調査は、社会的に意味ありの対象に関してのみ実施されるべきであると考えています。

当研究所の目的を達成していくためには、地方行政、中央省庁との政策研究が今後の重要なテーマとなります。そのため、本学においてもさらに多くの各分野の専門研究者のご参画とご協力をいただきたいと考えております。

研究所がこれまでに受託した研究・調査一覧

年	研究・調査の名称	発注者等
平成15年度	環境未来技術開発助成金（社会システム）『長寿命ストック型社会システムの評価・格付け法の構築』	北九州市　環境局
	産業廃棄物系リサイクル改良土壌を活用した自然創生技術の研究開発及びその実証実験並びに（これらの結果を踏まえた）自然創生システムの構築《継続》	（財）北九州産業学術推進機構 中小企業産学官連携研究開発事業
	黒崎通りづくり検討業務　（No.12、No.15）	（財）北九州都市協会
	西日本リビングショー特別企画	（財）西日本産業貿易見本市協会
	響灘埋立地Ｄ地区第２区画浚渫工事に伴う生物相調査	（財）北九州都市協会
	響灘緑の回廊基本構想策定業務	（財）北九州都市協会 （株）環境テクノス
	渥美・伊川津風力発電所建設にかかる環境影響評価・調査	日本風力開発（株）

上記以外にも様々な分野において講演活動をお引き受けするとともに各種委員会や研究会の委員として当研究所の研究員が就任するなど、ストック型社会システムに必要な長寿命型社会・循環型社会・自然共生等に関する調査研究を通じて啓蒙活動を展開しています。

これらの概要につきましては、平成15年１月に発行した『次世代システム研究所の所報第１号』並びに当研究所のホームページ　http://www.fss-kiu-ac.jpをご参照ください。

財務データ

平成14年度決算について

平成14年度決算では、支出削減努力等により、収支均衡のとれた良好な財務運営を行うことができました。しかしながら、大学を取り巻く財務環境が一段と厳しくなっていく中、大学を永続的に維持・発展させていくためには、今後の予算執行については、なお一層の経費削減に最大限努力するとともに、大学の活性化に繋がる重点施策に対しては実現に向けて積極的に取り組んでいきたいと考えております。

平成14年度「資金収支決算」

（単位:千円）

収　入　の　部			
科　　目	予　算	決算	差　異
学生納付金収入	4,578,850	4,585,497	△6,647
手数料収入	121,680	124,126	△2,446
寄付金収入	20,000	13,641	6,359
補助金収入	1,157,400	1,149,337	8,063
資産運用収入	61,110	63,386	△2,276
資産売却収入	0	0	0
事業収入	72,300	71,325	975
雑収入	114,670	118,237	△3,567
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	792,010	873,934	△81,924
その他の収入	329,311	374,976	△45,665
資金収入調整勘定	△1,035,367	△1,085,418	50,051
収支計	6,211,964	6,289,041	△77,077
前年度繰越支払資金	2,654,325	2,654,325	0
収入の部合計	8,866,289	8,943,366	△77,077

施設・設備等を取得するため金融機関等から借り入れる金額

長期・短期の貸付金の回収額

特定の目的のために積立た預金等を取り崩した金額

翌年度に入学予定の学生生徒から受け入れる授業料や入学金等

収入として計上したが未収となっているものや、前受金収入として前年度までに既に受け入れている収入を差し引くことにより、資金の収入額を調整するもの

（単位:千円）

支　出　の　部			
科　　目	予　算	決算	差　異
人件費支出	3,499,518	3,498,592	926
教育研究経費支出	1,003,139	922,613	80,526
管理経費支出	451,229	414,515	36,714
借入金等利息支出	76,302	76,302	0
借入金等返済支出	333,460	333,460	0
施設関係支出	6,021	6,021	0
設備関係支出	78,752	70,677	8,075
資産運用支出	429,980	438,938	△8,958
その他の支出	201,407	213,764	△12,357
資金支出調整勘定	△13,990	△42,393	28,403
予備費	28,241	0	28,241
支出計	6,094,059	5,932,489	161,570
次年度繰越支払資金	2,772,230	3,010,877	△238,647
支出の部合計	8,866,289	8,943,366	△77,077

土地、建物、構築物などを取得するための支出

教育研究用の機器備品、その他の機器備品、図書などを取得するための支出

支出として計上したが未払となっているものや、前払金支払として前年度までに支払っている経費を差し引くことにより資金の支出額を調整するもの

資金収支決算のポイント

〈収入の部〉

○前受金収入…入学手続者が予測を上回ったこと及び大学入学手続者に年間分の学生納付金一括払があったため、８２百万の収入超となった。

○その他の収入…大学受託徴収金預り金等の受入増により、４６百万の収入超となった。

〈支出の部〉

○教育研究経費支出…消耗品費、印刷製本費等事務関係コスト削減と、学外講師への支払報酬額が予測を下回ったことにより８１百万の支出減となった。

○管理経費支出…渉外費、旅費交通費、福利費を中心に支払額が予測を下回り３７百万の支出減となった。

平成14年度「貸借対照表」

（単位:千円）

資　産　の　部			
科　　目	平成14年度	平成13年度	増　減
固定資産計	20,607,255	20,853,655	△246,400
有形固定資産	17,961,466	18,529,391	△567,925
土地	4,181,575	4,181,575	0
建物	10,581,647	10,946,437	△364,790
構築物	802,498	859,612	△57,114
教育研究用機器設備	815,844	1,018,667	△202,823
その他の機器設備	101,582	103,754	△2,172
図書	1,473,840	1,414,729	59,111
車輌	4,480	4,617	△137
その他の固定資産	2,645,789	2,324,264	321,525
電話加入権	3,203	3,203	0
敷金	634	634	0
退職給与引当特定資産	1,288,194	1,192,964	95,230
施設設備拡充引当特定資産	605,133	605,133	0
減価償却引当特定資産	715,054	490,054	225,000
出資金	33,571	32,276	1,295
			0
流動資産計	3,218,328	2,877,144	341,184
現金・預金	3,010,877	2,654,325	356,552
貯蔵品	1,084	2,009	△925
未収入金	125,295	131,348	△6,053
修学・研修旅行費預り資産	65,281	70,199	△4,918
立替金	12,191	12,805	△614
仮払金	3,600	6,458	△2,858
資産の部合計	23,825,583	23,730,799	94,784

校舎・寮・体育館などの建物及び建物附属設備（空調など）の額

教育研究のために使用される機械設備等の額

高校女子部校舎新築を目的とした引当金

決算日（3月31日）における補助金などの未収額

（単位:千円）

負　債　及　び　基　本　金　の　部			
科　　目	平成14年度	平成13年度	増　減
固定負債計	3,851,919	4,261,824	△409,905
長期借入金	2,548,310	2,909,540	△361,230
退職給与引当金	1,289,310	1,334,221	△44,911
長期未払金	14,299	18,063	△3,764
流動負債計	1,425,480	1,530,325	△104,845
短期借入金	361,230	333,460	27,770
短期未払金	46,909	49,199	△2,290
前受金	873,934	960,617	△86,683
修学・研修旅行費預り金	65,409	70,352	△4,943
預り金	77,998	116,697	△38,699
負債の部合計	5,277,399	5,792,149	△514,750
科目	平成14年度	平成13年度	前年比
第1号基本金（施設・設備取得）	19,065,984	18,669,402	396,582
第4号基本金（運転資金）	397,000	397,000	0
基本金の部合計	19,462,984	19,066,402	396,582
科目	平成14年度	平成13年度	前年比
翌年度繰越消費支出超過額	914,800	1,127,753	△212,953
消費収支差額の部合計	△914,800	△1,127,753	212,953
科目	平成14年度	平成13年度	前年比
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	23,825,583	23,730,799	94,784

返済期限が１年以上の借入金

14年度末に教職員全員が退職した場合に支払われる退職金の見積額

返済期限が１年以内の借入金

翌年度に入学する学生生徒等から受入れた授業料・入学金等

財産的な基盤を確保する額のこと。本学が安定的かつ永続的に経営していくために必要な額

貸借対照表のポイント

〈資産の部〉

○建物・構築物…減価償却により、合計422百万減少した。

○教育研究用機器備品…枝光校舎（中学・高校男子部）・平野校舎（大学）に対して、パソコン・デジタルコピー機等14百万の新規投資を行った。また用途変更により133百万を「その他の機器備品」に振り替えた。

○現金・預金…手元流動性を厚くしたため357百万増加し、3,011百万となり、この額は資金収支決算書支出の部の「次年度繰越支払資金」と一致する。

〈負債の部〉

○長期・短期借入金…私学事業団への約定返済により333百万円減少した。15年度中の長期借入金約定返済分361百万については短期借入金に振替計上した。

○前受金…授業料314百万、入学金341百万等を中心として87百万減の874百万となった。

平成14年度「決算総括」

○平成14年度決算では、前年度決算と比較して帰属収入が336百万（5.2%）減となったものの、支出削減努力等により213百万の消費収入超を計上し無難な財政運営を行うことができた。

○しかしながら私学を取り巻く財政環境は今後とも厳しく、本学を永続的に維持・発展させていくためには、様々な改革（施策）を実現していかなければならず、そのためには相当額の資金投下も必要となる。

今後の予算執行については、なお一層の経費削減を行うとともに、教育の質の向上・本学活性化に繋がる施策については実現に向けて積極的に取り組みたいと考える。

速報!! アテネオリンピック 出場決定!

付属高等学校女子部
バドミントン部 出身
森　かおり選手

高校時代
「私の夢はオリンピックに出場し、メダルを獲得すること」
と言っていた森選手の夢が
一歩ずつ、前進しています！

付属高等学校女子部バドミントン部出身の森かおり選手（平成９年度卒業）がアテネオリンピックに女子シングルスで出場することが決定しました。
森選手は女子部卒業後、三洋電機に所属。‘01年、‘03年全日本選手権女子シングルスで見事全日本チャンピオンに輝きました。現在ナショナルチームにも所属し、年間15大会以上の海外遠征を行うなど大活躍しています。ハードスケジュールの中、世界を転戦して、今年５月１日付け世界ランキングが13位となり、アテネオリンピックへの切符を手に入れました。

三洋電機バドミントンチーム

1980年に創部。バドミントン日本リーグでは、'02、'03と２年連続全勝優勝するなど日本を代表する強豪チームの一つ。多くの選手がナショナルチームに所属し、過去にもオリンピック選手を輩出。
また女子部出身の潮田玲子（世界ランキング25位）選手も所属し活躍しています。
詳しくは公式ホームページ（http://www.sanyo.co.jp/social/badminton/）をご覧ください。

大学、男子部、女子部のバドミントン部の活動を紹介していますので、P3､5､7もご覧ください。

学校法人
九州国際大学
2004年5月26日 発行　●発行／法人総務室
〒805-8513　北九州市八幡東区平野2-5-1
☎093（671）8900